

音楽アーティスト科 ネットアーティストコース受講科目一覧 1年次

シンガー専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	アイソレーション I	74	2	4
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルスタイル I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	アイソレーション I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	2011年LA、2012年NYにてヴォーカルLIVEパフォーマンスを行い、国境を越え活動。NYにおいて毎月のイベント出演や野外イベントへの出演等を経験。現在も九州においてヴォーカリストとして幅広く活動中。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「発声法、歌唱技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・多様なジャンルの楽曲を理解し歌唱することで、表現力やテクニックの幅を広げます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【前期】 5～8回目	課題曲②【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【前期】 9～12回目	課題曲③【バラード】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【前期】 13～16回目	課題曲④【バラード】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【前期】 17～19回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験: 課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲⑤【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【後期】 24～27回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【後期】 28～31回目	課題曲⑦【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【後期】 32～35回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、表現力・技術力・テクニックを強化する
【後期】 36～37回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験: 課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取舍選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに「音楽理論、調音等」の実技指導を行う。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこなうことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1~4回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 5~8回目	インターバルの紹介、読譜、オリジナル作詞。
【前期】 9~12回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 13~16回目	ハモリ、オリジナル作詞2、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 17~19回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20~23回目	オリジナルメロ作成、1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 24~27回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習、オリジナルメロ作成2。
【後期】 28~31回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 32~35回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 36~37回目	ヒット曲のレコーディング。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ネット配信実習 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラーズ、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「配信における技術と知識」の指導を行う。				
授業概要					
インターネット上で自らのパフォーマンス動画を配信していきます。音源や配信環境を整え、演奏や歌唱の中身を高め、動画をアップロードし、より再生回数を増加させる工夫を探ります。					
到達目標					
世界の新興大企業のほとんどが配信サービスを持っており、ゲーム実況、雑談、カラオケなど多岐にわたる。作業配信などニッチな配信も人気な中で、このネット配信技術の授業ではデバイスやパソコンを使って演奏してみた、歌ってみたなど、また作曲配信を行えるようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	インターネットライブ配信の現状/各配信サービスの現状
【前期】 5～8回目	インターネットライブ配信を活用したタレント事例
【前期】 9～12回目	ライブ配信で人気のコンテンツ/配信の音をよくするための機材選び
【前期】 13～16回目	配信の高音質化に必要なものオーディオインターフェース マイクロホン ヘッドホン、イヤホンについて
【前期】 17～19回目	前期の復習・確認 ■前期試験:筆記試験にて「ネット配信の事例理解、配信機材理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オーディオインターフェースとは?オーディオインターフェースの選び方。
【後期】 24～27回目	配信の音をよくするための機材選び
【後期】 28～31回目	パソコンを使った演奏してみたや作曲配信
【後期】 32～35回目	配信用パソコンについて 配信用ソフトについて
【後期】 36～37回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:筆記試験にて「配信技術の理解とコンテンツのセンス」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コロナ禍でのオンライン配信も含め学んでいきます。こんな状況ですが一緒に頑張って勉強していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW基礎/ボーカロイド I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<p>・つぼみ(よしもとクリエイティブエージェンシー)「パッパラPARTY」/作曲</p> <p>・こまごめピベット(よしもとクリエイティブエージェンシー)「アストロ・コード」「魔法トマホーク」「ネバーランド」/ 作詞・作曲</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「作曲と編曲の技術と知識等」の指導を行う。</p>				
授業概要					
<p>作曲・編曲などDAW(Logic Pro)の基礎的な使い方を理解・習得します。</p> <p>楽曲制作を行う手順を一から理解できる様になります。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。 ・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。 ・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。 ・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みを習得する。 ・ボーカロイドの操作を習得。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	DAWについて、Logicについて。 Logicの操作方法、基礎的な使用方法について。
【前期】 5～8回目	Drumパターンの打ち込み(MIDIノート)、クオンタイズについて。 Drum Fillの作り方、打楽器について。
【前期】 9～12回目	鍵盤楽器の打ち込み。アルペジオ、コード打ち込みについて。
【前期】 13～16回目	ベースの打ち込み。ベースのパターンについて考える。 楽曲制作① 1分程度の楽曲制作。
【前期】 17～19回目	楽曲制作①提出、フィードバック。 メロディの打ち込みについて。 ミキシング・マスタリングについて①
【後期】 20～23回目	ストリングス・ブラス系の打ち込みについて。 弦楽器・管楽器の種類についての理解。
【後期】 24～27回目	シンセサイザーの使い方、打ち込みについて。 オートメーション、音色の作り方。
【後期】 28～31回目	楽曲制作② 3分程度の楽曲作成。 ボーカロイドの使用方法について。
【後期】 32～35回目	楽曲制作②フィードバック。 ボーカロイドの歌わせ方。ミキシング、マスタリングについて②
【後期】 36～37回目	コンプ・EQ・リバーブ等の使用方法について理解を深める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲制作は音楽業界の中でも中心的な存在です。最初は難しく感じるとは思いますが、苦手意識を持たずフラットな気持ちでDAWの様々な使い方を勉強しましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> 双子の弟・YUKIとR&Bデュオ「R104」として活動を開始し、2011年よりR&Bコーラスグループ「FREAK」として活動。avexから6枚のフルアルバムをリリースし、ZEPP FUKUOKAでのワンマンライブも行った。 作詞・作曲を自身でこなし、現在はソロでのリリースも精力的に行っている。 				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声ツールとして身につける。 発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を拡げるとともに音量、音圧など自在にコントロールできるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	教科書使用(ボイス理論1～4)
【前期】 5～8回目	教科書使用(ボイス理論5～8)
【前期】 9～12回目	教科書使用(ボイス理論9～12)
【前期】 13～16回目	教科書使用(ボイス理論13以降)
【前期】 17～19回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	基礎発声練習(チェストボイスの開発)
【後期】 24～27回目	基礎発声練習(チェストボイスの定着)
【後期】 28～31回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの開発)
【後期】 32～35回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの定着)
【後期】 36～37回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変更していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要					
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。 ・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。 ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験:筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	動画撮影/編集 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	絵画教室講師や3DCG映像制作会社を経て、現在はフリーランスのイラストレーターとして活動中。店舗イラストや商品冊子の挿絵、美術予備校から介護施設のパンフレットデザインなど幅広く担当。その他作家として個展・グループ展・ライブペイントを開催。				
授業概要					
マイクなどの録音機材、動画を撮影するための機材知識、ソフトオペレーション能力を高めながら納得のいく撮影と、より効果的にパフォーマンスをよく見せる為の編集方法を学びます。					
到達目標					
映像制作や編集において知っておくべき技術や作業工程を、基礎から具体的な応用ノウハウまで理解して自らの作品を作るまでを目標とします。 プリプロ、撮影、照明知識、録音、素材合成、ポストプロダクションなどn総合理解を促す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	基礎用語理解/動画フレームサイズ理解
【前期】 5～8回目	撮影アングル、カメラワーク、撮影機材/新規プロジェクトを作成/素材データを取り込む
【前期】 9～12回目	照明機材、人物照明/シーケンスについて、またプロジェクトの保存と読み込み
【前期】 13～16回目	グラフィックス、画像合成/パネル、トラック操作
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験:映像制作の流れを理解しているかを問う。企画、シナリオなどの提出
【後期】 20～23回目	各種編集テクニック
【後期】 24～27回目	トランジション、エフェクトの設定/操作する
【後期】 28～31回目	映像合成/カラー補正
【後期】 32～35回目	オーディオ調整/テロップ、書き出し設定
【後期】 36～37回目	■後期試験:ビデオフォーマット、データ圧縮を行い最終的に作品を提出する。。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学びきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル/シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	伊藤広規(山下達郎バンド)、小倉博和(kokua)、波多江健、伊東ミキオ、池田聡、土岐麻子、竹原ピストルなどと共演。スガシカオ佐賀公演のオープニングアクト出演。トヨタカローラ佐賀、ダイハツ長崎、ヒロホームなどのCMソング作成。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「歌唱技術」の指導を行う。				
授業概要					
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。					
到達目標					
自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。 歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【自由曲①(バラード)]ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 5～8回目	【自由曲②(アップテンポ)]リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 9～12回目	【自由曲③(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 13～16回目	【自由曲④(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 17～19回目	【自由曲①～④より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲⑤(洋楽)]言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 24～27回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)]ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 28～31回目	【自由曲⑦(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 32～35回目	【自由曲⑧(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 36～37回目	【自由曲①～⑧より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミックキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもちかかっていく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 9～16回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 17～24回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 25～32回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 33～38回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 47～54回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 55～62回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 63～70回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 71～74回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティーを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人が奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

音楽アーティスト科 ネットアーティストコース受講科目一覧 1年次

ドラム専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	アイソレーション I	74	2	4
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
講義	作曲編曲 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	分野別実習 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
合計		888	24	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ドラムスタイル I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	アイソレーション I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの演奏へ取り込んでいきます。					
到達目標					
・様々なスタイルの中からリズムやグルーブにフォーカス。多くの類例を通してアンサンブルの中で課題フレーズを反復し、バンド演奏において必要となるリズム感、を底上げします。 ・各ジャンルのノリやグルーブを表現できる演奏を目指す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Deep Purple等)【Punk】ジャンルの考察とフレーズ練習(Sex Pistols等) 【Alternative/Grunge】ジャンルの考察とフレーズ練習(Nirvana等)
【前期】 5～8回目	【Alternative/Mixture Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Red Hot Chilli Peppers等)【Hard Rock】ジャンルの考察とフレーズ練習(Guns N' Roses等)【Metal】ジャンルの考察とフレーズ練習(Metallica等)【Funk】ジャンルの考察とフレーズ練習(James Brown等)
【前期】 9～12回目	【Funk2】ジャンルの考察とフレーズ練習(Wild Cherry等)【Blues】ジャンルの考察とフレーズ練習(B.B.King等)
【前期】 13～16回目	テストレビュー/前期テスト/【Jazz】ジャズブルース進行
【前期】 17～19回目	【前期まとめ】前期の内容を復習 ■前期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【Ska】ジャンルの考察とフレーズ練習(The Skatalites等)【Raggae】ジャンルの考察とフレーズ練習(Bob Marley等)【Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(sunny等)
【後期】 24～27回目	【Bossa Nova】ジャンルの考察とフレーズ練習(イパネマの娘等)【Soul】ジャンルの考察とフレーズ練習(Marvin Gaye等)
【後期】 28～31回目	【Smooth Jazz】ジャンルの考察とフレーズ練習(Paul Jackson Jr.等)【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Larry Carlton等) / 後期まとめ
【後期】 32～35回目	【Jazz/Fusion】ジャンルの考察とフレーズ練習(Pat Metheny等) / テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	スライドバー/年間まとめ ■後期試験: 課題曲の演奏により「演奏力 / 知識力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力 / 知識力」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムというパートの特性もありますが、主体性を持って何かを企画し、行動に移し、形にする事を余りしない傾向があります。これからの時代のドラマーは、より音楽や制作活動を包括して捉えていくのが望ましいはずで、自分の特性を見極めて、自分からどんどん発信していく力を身につけてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを捨捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を増やしながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」等、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論等」の指導を行う。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聞き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聞き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 5～8回目	インターバルの紹介、読譜、オリジナル作詞。
【前期】 9～12回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 13～16回目	ハモリ、オリジナル作詞2、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 17～19回目	歌と発声、5度圏、聞き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナルメロ作成、1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 24～27回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習、オリジナルメロ作成2。
【後期】 28～31回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 32～35回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 36～37回目	ヒット曲のレコーディング。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ミュージックリーディング I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラマ				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイロース、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「作曲編曲」の指導を行う。				
授業概要					
音楽を記号で書き記したものを“楽譜”。その中でも、リズム譜、構成譜を中心に読む訓練と、それに伴うリズム感覚を養うトレーニングを行う授業です。 スネアだけのシンプルなラインを読むところからスタートし、セット全体のコンビネーション、さらには初見演奏に対応できる力を身につけていきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜上の音符や休符、構成等の表記法と仕組み、意味を学習させ、読みこなせる力をつける。 ・各音符の細分化された目盛りを意識し、カウントの種類と発音法を学ぶ。 ・常にカウントを歌いながら演奏できるようになる。 ・一般的な楽譜の最低限の常識を理解し、実際の演奏における情報記録媒体として活用できるようにスキルとして身に付ける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	拍子、細分化された音符の目盛り(サブディビジョン)の解説、音符や休符の仕組み テキストUnit1 全音符～4分音符とそれらに対応する休符 カウントについて
【前期】 5～8回目	テキストUnit2～4 略記法 8分音符 2Part Counting スティックングについて
【前期】 9～12回目	テキストUnit5～7 16分音符 3連符について 付点音符
【前期】 13～16回目	Unit8～Unit10 付点音符 3連符の様々なコンビネーション
【前期】 17～19回目	Unit10～12 前期まとめ ■前期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Unit13～14 D.S.D.Cを使った楽譜練習
【後期】 24～27回目	Unit15～Unit17 6連符と6Part Countingについて
【後期】 28～31回目	Unit18～20 カウンティングの徹底、サブディビジョンの説明
【後期】 32～35回目	応用編:ポリリズム、リズムックノーテーションについて
【後期】 36～37回目	応用編 理解とまとめ ■後期試験:譜面の読み書きや演奏にて「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各音符と休符の相対的な長さの理解度 / 各略記法の理解度 / カウントの達成度 / スティックング / タイミング」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽器演奏において、楽譜を理解し読譜力、記譜力を高めることはとても重要です。プロフェッショナルなレベルにおいては、他の演奏者との正確でスムーズなコミュニケーションを促したり、自己の演奏や練習の手がかりや記録になったりします。また、音のタイミングを理解したり楽曲の構成を把握するのにも大きな助けになります。高度な物を理解するにしても最後には基本の習熟度如何に関わってきます。一つ一つ理解していくことで必ず読譜力が身に付き、音楽活動のプラスになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ネット配信実習 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ポール・ギルバート、シェーン・ガラーズ、Allen・Hindsとのセッションも経験。中洲jazzやバルーンフェスタ、イスラデサルサ等イベントにも多数出演。デヴィッド・ボウイなどのアーティスト写真を撮った写真家鋤田正義氏の写真展でのBGMにギターでの参加するなどアート方面での音楽でも活躍。上記の経歴を活かし、職業として求められる職業として求められる「配信における技術と知識」の指導を行う。				
授業概要					
インターネット上で自らのパフォーマンス動画を配信していきます。音源や配信環境を整え、演奏や歌唱の中身を高め、動画をアップロードし、より再生回数を増加させる工夫を探ります。					
到達目標					
世界の新興大企業のほとんどが配信サービスを持っており、ゲーム実況、雑談、カラオケなど多岐にわたる。作業配信などニッチな配信も人気な中で、このネット配信技術の授業ではデバイスやパソコンを使って演奏してみた、歌ってみたなど、また作曲配信を行えるようにする。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	インターネットライブ配信の現状/各配信サービスの現状
【前期】 5～8回目	インターネットライブ配信を活用したタレント事例
【前期】 9～12回目	ライブ配信で人気のコンテンツ/配信の音をよくするための機材選び
【前期】 13～16回目	配信の高音質化に必要なものオーディオインターフェース マイクロホン ヘッドホン、イヤホンについて
【前期】 17～19回目	前期の復習・確認 ■前期試験：筆記試験にて「ネット配信の事例理解、配信機材理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オーディオインターフェースとは？オーディオインターフェースの選び方。
【後期】 24～27回目	配信の音をよくするための機材選び
【後期】 28～31回目	パソコンを使った演奏してみたや作曲配信
【後期】 32～35回目	配信用パソコンについて 配信用ソフトについて
【後期】 36～37回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験：筆記試験にて「配信技術の理解とコンテンツのセンス」を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コロナ禍でのオンライン配信も含め学んでいきます。こんな状況ですが一緒に頑張って勉強していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレインディングテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口憐二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽理論、楽器の技術や知識等」の指導を行う。				
授業概要					
ドラミングの基礎ともいえる、ルーディメンツをタイムキープ、モーションの効率化、4ウェイコーディネーションなど複合的に取り入れ、より応用性の高いアプローチとして成熟させていきます。ドラムセット演奏における基本技術。特にハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称も覚えながら体系的に学んでいく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習し、基本を正確に理解&習得する。 ・それぞれの関係性を学び、それに伴いグラッドストーンやモーラー等の伝統基本奏法を身につける。 ・音量の強弱、アクセントのコントロール、スピード、巧緻性等の向上を図る。 ・ドラマーに必要な基本技術を理解し、各自の音楽性や表現力と技術との融合を促し、発展させていける段階に引き上げる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ドラマーにとっての基本奏法、ルーディメンツ等の習得の必要性、重要性の説明 グラッドストーン奏法の基本グリップ、リバウンドの感覚の習得
【前期】 5～8回目	4つの基本ストロークとそれによるアクセントとノーマルアクセントの叩き分け、ダブル・ストロークの習得
【前期】 9～12回目	PAS40ルーディメンツ学習 ショート・ロール系 セットへの応用
【前期】 13～16回目	PAS40ルーディメンツ学習 パラディドル系 試験
【前期】 17～19回目	PAS40ルーディメンツ学習 フラム系 コンビネーション練習 ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	PAS40ルーディメンツ学習 ドラッグ系、インバーテッド系
【後期】 24～27回目	関連性のあるルーディメンツの統括 手足のコンビネーション ヘルタ等
【後期】 28～31回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ①～② フット・テクニックへの基本奏法の応用
【後期】 32～35回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 試験
【後期】 36～37回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ③～④ まとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「ペロシティ・ストローク / 各ルーディメンツとその名称 / シングル、ダブル、フラムなどの基本ストローク」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出る取り組みやすい楽器ですが、一方で、技術的に上達するには手足の基本奏法をきちんと習得する必要があります。それには独習で身につけるよりもレッスンで正確な知識と練習方法を学ぶ事が近道です。ドラムセット演奏の可能性を自由に引き出せるようになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムの歴史と体系		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナン」等、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論等」の指導を行う。				
授業概要					
音楽の三大要素であるリズムを理解し、小節や指の概念を理解する。リズムに関する記号や音符を理解する。ロック/ブルース/ジャズ/ファンク/レゲイ/フュージョン/メタル他、ルーツミュージックなどをスタイル別に、また世界的スタンダードナンバーの持つリズムの歴史が後世に与えたインパクトなどを知識として理解していきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の様々な音楽のリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになる。 ・バンドでのテンポキープやサウンドコントロールに磨きをかける。 ・誰と演奏してもぶれないリズム、グルーヴを身につける。 ・譜面に出てくる色々な記号を理解する。 ・譜面を読むスピードが速くなるよう初見に強くなる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	カウントの重要性/8ビートのリズムパターン/ダイナミクスへのトライ/シンコペーション
【前期】 5～8回目	ピックアップノートのスタート/Que出しのトライ/マイナーブルース/ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	フォークロックのニュアンス/セクションとりハーサルマーク/Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期内容のまとめ ■前期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナル譜面へのトライ/スウィング & シャッフル/ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	スウィングビートへのトライ/ジャズシャッフル/12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	16ビートのFunkフィール/Funkフィールのアンサンブル/ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期内容のまとめ ■後期試験: 譜面の読み書きや演奏にて「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面への読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「リズムリーディングワークアウト」は譜面のみでのやり取りになります。 この授業を通して譜面の初見のスピード、あらゆる記号や表現力を高め、即戦力を身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	動画撮影/編集 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	絵画教室講師や3DCG映像制作会社を経て、現在はフリーランスのイラストレーターとして活動中。店舗イラストや商品冊子の挿絵、美術予備校から介護施設のパンフレットデザインなど幅広く担当。その他作家として個展・グループ展・ライブペイントを開催。				
授業概要					
マイクなどの録音機材、動画を撮影するための機材知識、ソフトオペレーション能力を高めながら納得のいく撮影と、より効果的にパフォーマンスをよく見せる為の編集方法を学びます。					
到達目標					
映像制作や編集において知っておくべき技術や作業工程を、基礎から具体的な応用ノウハウまで理解して自らの作品を作るまでを目標とします。 プリプロ、撮影、照明知識、録音、素材合成、ポストプロダクションなど総合理解を促す。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	基礎用語理解/動画フレームサイズ理解
【前期】 5～8回目	撮影アングル、カメラワーク、撮影機材/新規プロジェクトを作成/素材データを取り込む
【前期】 9～12回目	照明機材、人物照明/シーケンスについて、またプロジェクトの保存と読み込み
【前期】 13～16回目	グラフィックス、画像合成/パネル、トラック操作
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験:映像制作の流れを理解しているかを問う。企画、シナリオなどの提出
【後期】 20～23回目	各種編集テクニック
【後期】 24～27回目	トランジション、エフェクトの設定/操作する
【後期】 28～31回目	映像合成/カラー補正
【後期】 32～35回目	オーディオ調整/テロップ、書き出し設定
【後期】 36～37回目	■後期試験:ビデオフォーマット、データ圧縮を行い最終的に作品を提出する。。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学びきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムリーディングワークアウト		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」等、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。				
授業概要					
世界の様々な音楽のリズム、グループに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターしていきます。また、バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけます。週一で一課題を90分の予習後、ギター、ベース、ドラムでアンサンブルを行うリズム、グループに重点を置いた授業。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ギター、ベース、ドラムでアンサンブルする上で意識するリズムやポイントを様々なジャンルの課題曲を通して習得する。 ・自分の演奏するパート以外に意識を向けて全体でアンサンブルを組み上げる為の集中力を上げる。 ・全体でリズムをグループさせるタイム感を養う。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	unit1～4 ・unit1:カウントの重要性 ・unit2:8ビートのリズムパターン ・unit3:ダイナミクスヘトライ ・unit4:シンコペーション
【前期】 5～8回目	unit5～8 ・unit5:ピックアップノートのスタート ・unit6:Que出しへのトライ ・unit7:マイナーブルース ・unit8:ハーフタイムフィール
【前期】 9～12回目	unit9～11 ・unit9:フォークロックのニュアンス ・unit10:セクションとリハーサルマーク ・unit11:Cセクションへの対応
【前期】 13～16回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ/unit1～11までのおさらい ■前期試験: 課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	unit12～14 ・unit12:オリジナル譜面へのトライ ・unit13:スウィング&シャッフル ・unit14:ロックシャッフル
【後期】 24～27回目	unit15～17 ・unit15:スウィングビートへのトライ ・unit16:ジャズシャッフル ・unit17:12/8フィールのリズム
【後期】 28～31回目	unit18～20: ・unit18:16ビートのFunkフィール ・unit19:Funkフィールのアンサンブル ・unit20:ブラックミュージックのフィールを学ぶ
【後期】 32～35回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 36～37回目	後期まとめ ■後期試験: 課題曲の演奏にて「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 譜面の内容把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業でアンサンブルに必要な集中力やリズムのポイントを養って、高いアンサンブルスキルを身につけましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ネットアーティスト/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナン」等、レコーディング時のバックアップミュージシャン 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力」の指導を行う。				
授業概要					
様々な音楽スタイルの課題曲を通して、楽曲が内包するテクニックやリズム、グループフィールやステージング技術の習得を目指すのがライブ実習。ヒットナンバーの演奏を通してライブ感やステージパフォーマンスの更なるグレードアップをはかります。課題曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ライブならではの表情力豊かな演奏力を身につける。 ・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。 ・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。 ・演奏以外の面でのパフォーマンス力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握。シンプルな8ビートの中でのダイナミクスを学ぶ
【前期】 9～16回目	【課題曲①】8シャッフルのグループ、フィルインのパターンを身につける。シンコペーションを多様してもタイムをしっかりとキープできる
【前期】 17～24回目	【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握。少し複雑な構成のパターンをしっかりと叩き分ける
【前期】 25～32回目	【課題曲②】急なテンポチェンジをバンド全体でしっかりと息を合わせ演奏できる
【前期】 33～38回目	【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握 ■前期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	【課題曲④】ロックだが16ビートのグループがきちんと出せる。パターンが変わっていくが一定のタイムで演奏できる
【後期】 47～54回目	課題曲【④】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 55～62回目	課題曲【⑤】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 63～70回目	課題曲【⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 71～74回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握 ■後期試験：課題曲の演奏にて「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ライブ演奏はCDのようにただ演奏すれば良い、というわけにはいきません。演奏は上手なのに、いまいち盛り上がらないライブもありますし、逆にあまり上手ではないけれど心をつかまれる演奏もあります。しっかりと演奏することはもちろん必要ですが、ライブならではのアレンジや視覚的なパフォーマンスも重要になってきます。それらの技術をこの授業で身につけていきましょう。
備考	